

愛知県済生会リハビリテーション病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年10月2日策定

【愛知県済生会リハビリテーション病院の基本情報】

医療機関名：社会福祉法人^{財団}済生会支部愛知県済生会 愛知県済生会リハビリテーション病院

開設主体：社会福祉法人^{財団}済生会支部愛知県済生会

所在地：愛知県名古屋市西区栄生1丁目1番地18号

許可病床数：199床

（病床の種別）

療養病床

（病床機能別）

療養病床回復期リハビリテーション

稼働病床数：199床

（病床の種別）

療養病床

（病床機能別）

特定入院料回復期リハビリテーション病棟入院料

診療科目：内科 神経内科 リハビリテーション科

職員数：239名

- ・ 医師 8名
- ・ 看護職員 90名
- ・ 専門職 113名
- ・ 事務職員 28名

【1. 現状と課題】

① 名古屋・尾張中部構想区域の現状

ア 人口の見通し

- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

イ 医療資源等の状況

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- 消防庁データに基づく緊急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷）の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制に大きな問題が生じていないと考えられます。

<医療資源等の状況>

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(km ²)	5,169.83	368.34	—

ウ 入院患者の受療動向

(名古屋医療圏)

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

(尾張中部医療圏)

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流入しています。

② 名古屋・尾張中部構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想地域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

<平成27年度病床機能報告結果と平成37年度必要病床数との比較> (単位：床)

構想区域	区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
名古屋・尾張中部	平成37年の必要病床数①	2,885	8,067	7,509	3,578	22,039
	平成27年病床機能報告	6,380	8,923	1,989	4,463	21,755
	平成27年の病床数②	6,650	9,238	2,059	4,620	22,522
	差引 (①-②)	△3,720	△1,171	5,450	△1,042	△483

③ 自施設の現状

当院は、名古屋市北西部の位置にあり、近隣には2救命救急センター（名古屋医療センター、名古屋第一日赤）を始め大規模急性期病院（名古屋医療センター、名古屋第一日赤、名鉄病院、名城病院）があり、これらの急性期病院との機能分化を図りつつ、後方病院として脳血管疾患、運動器疾患、廃用症候群の患者の回復期リハビリテーション病院として地域医療に貢献している。なお、前方病院からの紹介率は100%で、その内名古屋医療センター、名古屋第一日赤、名鉄病院の紹介が6割強である。当院は、病床数199床の県内有数のリハビリ専門病院であるが、平成28年度の患者さんのほぼ8割は名古屋市内在住の患者さんである。

平成28年度の患者在宅復帰率は、88.3%であり、退院先は自宅70%、施設18%となっている。

当院は、退院患者を主な対象に通所リハビリテーションを平成26年6月から運営している。

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
病床数(床)	199	199	199	199
療養入院基本料	回復期入院料2	回復期入院料2	回復期入院料2	回復期入院料2
病床稼働率(%)	84.3	86.8	88.8	88.0
平均在院日数(日)	70.3	59.9	65.3	64.8
常勤職員数(人)	228	244	239	245
経常利益率(%)	20.2	23.5	22.3	21.3
人件費比率(%)	61.9	59.8	62.6	64.0
研修費用(千円)	4,727	6,121	6,192	9,069
紹介率(%)	100	100	100	100

④ 自施設の課題

平均稼働率は、9割弱だが、夏から秋にかけて稼働率が8割前後に落ち込み、安定した患者の確保に当院は努力している。

患者さんの約8割は、前方3病院からの紹介で、特に名古屋医療センターからの紹介者が多く、前方病院との連携、ネットワークを構築して急性期病院の患者情報の共有を進める必要がある。

退院患者さんの7割は自宅復帰であるが、入院中から自宅での日常生活動作機能向上のリハビリを実施しているが、退院後も維持できるよう支援する必要がある。そのため、退院患者に対して、従来からの通所リハビリテーションサービスに加え、介護保険による訪問リハビリテーションのサービスの提供を検討する必要がある。

また、地域包括ケアによる健康、医療、介護サービスの一体的提供の関わりとして、介護予防について、地域に対して医師、セラピストなどによる健康教室の開催が必要である。医療面については、回復期リハビリテーション病院として、急性期からの患者を受け入れ、リハビリ医療を提供して、自宅等への復帰を図っている活動を更により効率的に実施していく必要がある。在宅復帰後の支援として、定期的にケアマネジャーとの懇談会を継続して実施していく必要がある。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

当院は、近隣には2救命救急センター（名古屋医療センター、名古屋第一日赤）を始め大規模急性期病院（名古屋医療センター、名古屋第一日赤、名鉄病院、名城病院）がある。これらの急性期病院との機能分化を図りつつ、後方病院として脳血管疾患、運動器疾患、廃用症候群の患者の回復期リハビリテーション病院として地域医療に貢献している。今後もこの回復期リハビリテーション病院としての機能を維持し発揮していくこととしている。

また、当院は退院患者さんの医療保険から介護保険への移行を積極的に支援するため、介護保険による通所リハビリテーションを運営しているが引き続き介護・福祉サービスを提供していく。

更に、通所が困難な患者さんのために新たに介護保険による訪問リハビリテーションのサービスの提供していく。

また、地域包括ケアによる健康、医療、介護サービスの一体的提供として、介護予防として、地域に対して医師、セラピストなどによる健康教室の開催を検討していく。医療面については、回復期リハビリテーション病院として、急性期からの患者を受け入れ、リハビリ医療を提供して、自宅等への復帰を図っている活動を更により効率的に実施していく。介護面については、通所リハビリテーションの運営に加え、訪問リハビリテーションの開所を図っていく。この点については、地域包括支援センターである「名古屋市西区北部いきいき支援センター」及び「名古屋市西区南部いきいき支援センター」との連携をとって運営していく。

区 分	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度～ 平成37年度
病 床 数	199	199	199	199	199	199
入院基本料	回復期入院 料	回復期入院 料	回復期入院 料	回復期入院 料	回復期入院 料	回復期入院 料
平均稼働病 床数	180	180	180	180	180	180
紹 介 率	100	100	100	100	100	100

② 今後持つべき病床機能

現在の回復期の機能を継続していく。

③ その他見直すべき点

リハビリ専門病院として、訪問リハビリテーションを設置し、地域の在宅者に対しリハビリを提供する。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	199		199
慢性期			
(合計)	199		199

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	・病床利用数の確保	180床	<p>集中的な検討を促進 2年間程度で</p> <p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第8期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次医療計画</p>
2018年度	・病床利用数の確保	180床	
2019～2020 年度	・病床利用数の確保	180床	
2021～2023 年度	・病床利用数の確保	180床	

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科 神経内科 リハビリテーション科	→	内科 神経内科 リハビリテーション科
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

【4. その他】
(自由記載)

--